

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 石動高等学校アクションプラン — 1 —		
重点項目	学習活動（生徒の学習意欲の喚起と基礎学力の伸長及びICT活用）	
重点課題	①②生徒の探究心を喚起する「主体的・対話的で深い学び」を実践し、さらには家庭における学習や探究を促進するために、ICT機器や教育用クラウドサービス等を積極的に利用し、生徒の学びに向かう意欲を高める。 ③検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力を育成する。	
現 状	①②生徒一人につき1台が配備されたタブレットと教育用クラウドサービスの活用により、すべての生徒がこれらを使いながら授業に向かう環境が整っていたが、令和7年度入学生からは各家庭にて個人所有の端末を用意することとなった。教員にはこれまで以上にこれらの利用を通じて、授業において、生徒対生徒、教師対生徒の「主体的・対話的で深い学び」を重視した改善を図り、家庭においても積極的にICT教材による学習や探究活動に取り組ませることが必要である。 ③商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にも繋がっている。	
達成目標	①「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業において、タブレットや教育用クラウドサービスを活用した教員の割合 ②家庭学習でタブレット及び教育用クラウドサービスを週2回程度利用した生徒の割合	③商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数 (1)簿記 (2)ビジュ初文書 (3)ビジュ初情報 (4)プログラミング (5)商業経済 (6)珠算 (7)電卓 (8)英語 (9)財務諸表分析・財務会計・管理会計のうち1検定以上
	① 80% ② 60%	10人以上（卒業年度）
方 策	- 互見授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現について、タブレット等を用いた授業の積極的な実施と意見交換を促す。 - 生徒に効率よく家庭学習を行うアイテムとしてタブレットや教育用クラウドサービスの積極的な利用を促す。	
	- 朝や放課後の補習授業を実施する。 - 商業関連部活動を充実させる。 3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。 - 教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	・ほとんどの生徒が自分のスマホを持っており、自他の個人情報や安易に SNS に掲載したり、ネットルール・マナーを守らないことでトラブルが起こっている。 ・ネットパトロールからの情報提供を受けて指導した生徒は近年は少なく、令和3年度1名、令和4年度、5年度は0名、6年度は1名であった。 ・令和5年度からはネットルール4箇条を共通ルール3とマイルール1とした。マイルールについてはネットルールツリーを作成し、可視化することで意識の高揚を図った。結果令和6年度ではネットルール4箇条を守っている生徒は全体の93%であった。 ・スマートフォンの自己管理については、各自の貴重品ロッカーで管理することになっているが、5年度は43名、6年度は46名と一定の生徒によるルール違反、不正使用を確認している。 ・生活リズムの乱れ等不規則な生活習慣により、不調を訴える生徒が比較的多い。今後も基本的な生活習慣の確立ができるよう、心身の健康について主体的に考え、判断し、行動する態度の育成が必要であると考え。
達成目標	①授業中におけるスマートフォン、携帯電話の不正使用件数35名以下
	②生活習慣・心と体の健康にかかわる広報活動を行う（隔月に1回以上）
方 策	・スマホ使用に関するアンケートで使用実態を把握し、ネットルール4箇条の遵守を積極的に推進することで、長時間の使用を控え、ネット依存にならないようにする。 ・自治委員会で生徒が主体的にルールを守るような啓発活動を考え、実行させる。 ・情報モラルやセキュリティの意識向上を図るため、スマホ安全教室（1学年対象）を実施する。 ・全体集会や授業、HR、インフォメーションコーナーを活用し、実際に起こっている事件や事故の情報を伝え、被害者にも加害者にもならないために必要なことを考えさせる。 ・保護者にも協力を依頼し、家庭でスマホの使用について話し合う機会を持ってもらう。 ・生徒保健委員会で、生活習慣について今の自分たちに必要なことを話し合い、調査・研究を行う。 ・広報活動として、保健だよりに生徒参加型のコーナーを設ける。 ・保健室周辺のホワイトボードを生徒参加型の広報活動に活用する。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 石動高等学校アクションプラン — 3 —	
重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）
重点課題	進路意識の向上と生徒への進路支援の充実
現 状	・なかなか進路について具体的な目標や志望を持てず、3年生の進路決定時に、焦りながら自分の進路を考え出す生徒が多い。そのため、学習に対して忍耐強く取り組むことができず、学習時間の不足に繋がっている。 ・年々進路が多様化しており、ますます生徒各自が自分の目標を持って、低学年時より地道に進路実現の道筋を意識することが必要になっている。また、進路の多様化に加え、入試制度の多様化が急速に広まっており、これまでの指導を生徒が必要としている指導にいかに対応していけるかが重要になっている。
達成目標	① 1年：学びたい分野を決定している生徒の割合 80%以上 ② 2年：志望校を決定している生徒の割合 70%以上
	② 3年：自分の進路選択に満足しているとする生徒の割合 90%以上
方 策	・大学等出張講義・研修旅行・探究活動・進路講演会などを利用し、生徒の進路意識を高め、自分の進路について考える機会を与える。 ・オープンキャンパスや説明会への積極的な参加を呼びかけ、各自の目標を明確化できるようサポートする。 ・生徒と十分に個別面談を行い進路希望を把握し、進路実現するための手立てを教職員で共有しながら丁寧に指導を進める。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 石動高等学校アクションプラン — 4 —	
重点項目	特別活動（生徒が主体的に取り組む、より充実した体験活動となるような特別活動の運営）
重点課題	協力してよりよいものを築こうとする自主的・実践的な態度の育成
現 状	・部活動や体育大会・学校祭などの学校行事での活動は、集団行動を通じて自主的な規律ある習慣・態度を身に付け、生徒自らがなすべきことを考えて積極的に活動に参画する態度を養う機会となる大切な活動である。内容を精選し、常に活動の仕方を工夫しながら運営していく必要がある。 ・体育大会や学校祭などの学校行事では、多くの生徒が楽しみながら取り組んでいる様子が見られる。受け身の取り組みにならないように、生徒の声を反映させて、より目的意識を持った充実した体験活動になるように工夫したい。 ・部活動には全校生徒のうち、運動部に52.0%、文化部に33.8%の生徒が加入している。各部の特性や部員の様子はそれぞれ違うので、よりよい活動になるように各部ごとの運営方法を考える必要がある。
達成目標	① 学校行事(体育大会・学校祭)への取り組みに対する充実度 5段階評価による4以上が70%以上
	② 部活動での活動に対する充実度 5段階評価による4以上が70%以上
方 策	・学校行事では生徒会が主体となって、生徒の声を集約し、それらを反映させて活動を計画し、生徒主体での運営を図る。 ・限られた学校生活の時間の中で豊かな体験活動ができるように、行事の見直しや精選を行い、また生徒の創意工夫を生かせるように配慮する。 ・部活動では全体計画や活動内容等について顧問と部員が情報を共有し、意見交換しながら、個人や集団の実態に応じて具体的な目標を設定し、活動を行う。 ・学校行事や高体連・高文連主催の各種大会等後に関し、取り組みに関するアンケートを実施し、その振り返り結果を踏まえて以降の活動内容を検討し改善を図る。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）